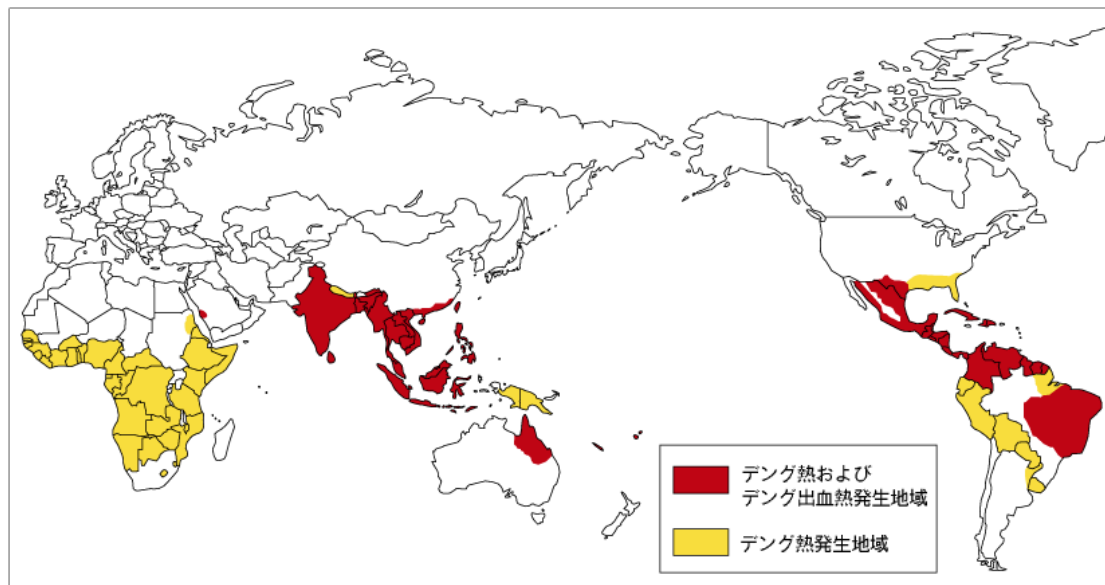


デング熱はアジアや太平洋諸島を中心とした熱帯・亜熱帯地域に広く見られ、東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国などで、アフリカ、オーストラリア、中国、台湾でも発生しています。世界中で年間約1億人も感染者が発生し、約25万人がデング熱を発症すると推定されています。

図1. デング熱・デング出血熱の発地域 (WHO, CDC資料より作製)



1. 感染経路は・・・

デング熱ウイルスも持った蚊（ネツタイシマカ、ヒトスジシマカなど）に刺されることによって感染します。デング熱ウイルスを持った蚊は**日中に活動**をし、衛生状態の良い**都市部でも見られます**。ヒトスジシマカとはいわゆるヤブ蚊の事で、いずれ日本でデングが蔓延するかもしれません。



画像1 CDC Yellow Bookより

2. 主な症状

3～15日、通常5～6日の潜伏期（蚊に刺されてからウイルスが体内で増えるまでの時間）を経て、突然の発熱が起こります。熱は38～40℃程度で5～7日間持続し、額とこめかみの激しい**頭痛**、**関節痛**、**筋肉痛**、**発疹**を伴います。この発疹は風疹と同じような小さな紅斑で、痒みや痛みはありません。また軽い皮下出血が足腿部、腋下、手のひらに発熱期の最後や解熱後に現れます。とくに頭痛、関節痛はとても強いため、別名 BreakBone Fever（骨が折れるくらい痛い熱病）とも呼ばれます。まれに体中から出血をするといった重篤な病態をとることがあります。過去に罹患した人が再度デング熱にかかったときにこのような病態をとりやすくなるといわれております。



3. 予防方法

- ◇ 治療薬はなく、また予防接種や予防薬はありません。
- ◇ 一番の予防法は、蚊に刺されないように注意することです。
- ◇ 全ての蚊がウイルスを持っているわけではなく、蚊に刺されたらからといってみな感染することはありません。また、デングウイルスに感染しても、全ての人がデング熱を発症するわけではありません。蚊に刺されて、デング熱になるかならないかは確率の問題です。熱帯地域で一回も蚊に刺されない様にするのは困難ですが、有効な防蚊対策を行うことによってデングに罹る確率は十分減らすことができます。

4. 防蚊対策

- ◇ デング熱を媒介する蚊が活動する日中、特に日の出と夕暮れに注意が必要です。
- ◇ 長袖、長ズボンを着用しましょう。特に夜間は明るい色の衣服をオススメします。
皮膚にぴったりとしたジーパンやTシャツなどは服の上から容易に刺されます。
防虫剤が付着した防虫ウェア（スコーロン：帝人ファイバー株式会社）もオススメです。
- ◇ 皮膚の露出部には虫除けスプレーを使用しましょう。虫除けスプレー（ローション・クリーム）はDEETが20%以上含まれたものをオススメします。海外で購入できます。
- ◇ 蚊取り線香や電子蚊取り器は日本のものが最も優秀です。渡航前に購入されることをオススメします。
- ◇ 部屋は密閉しエアコンを使用しましょう。不可能な場合は、破れていない網戸を使用しましょう。
また、蚊取り線香を使用しましょう。
- ◇ 設備の整ったホテル以外に宿泊する場合は旅行用の蚊帳を持参するといいでしょう。



スコーロン